

2016 年度後期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学部—

法学部長 鋤本 豊博

授業評価アンケートが組織的なFD活動の一環として各学部に導入されて久しいが、アンケート結果を各自の授業にどのように活かすかは個々の教員の裁量に委ねられている。大学教育の本義は、教員が自ら研鑽してきた内容をいかに理路整然と伝授するかにあるとすれば、学生の評価を常に意識しつつ、独善的な授業内容や講義スタイルにならない限り、このこと自体に問題はない。むしろ、学生評価を「直接」授業内容に反映させるように求めることは、自学自習なき学生にも理解できるような講義内容にしておけばよいという安直な意識を誘発しかねないのではなかろうか。

昨年度と比べ、すべての項目において評価数値の微増が見られた。最も評価の低い「予習または復習をよくした」という項目においても、3.47 から 3.56 に増加したことに少し安堵感を覚えている。学生を本気モードにさせる仕組みを授業内に構築する試みをさらに強化し、改善を重ねたいと思う。